

一
九
七
本

概要

《文部省發行錦繪（衣喰住之内家職幼繪解之圖等）》は、明治六年（一八七三）に文部省が発行した錦繪のうち、筑波大学附属図書館が所蔵する宮木文庫画帖十三帖に含まれる、六十九枚の錦繪作品群一帖である。

筑波大学附属図書館蔵『宮木文庫目録』によれば本作は「文部省發行錦繪（衣喰住之内家職幼繪解之圖等）、曜齋国輝画、〈950 197〉と記されており、冒頭の作品名はここから引用した。また、『明治時代小学校教科書目録』では本作は錦繪懸図として分類され、「文部省發行錦繪 六十九枚 文部省製本所發行衣食住内家職幼繪解図一八枚、（応需曜齋国輝畫） 服裝五枚、運動三、農業六、商業（度量衡）五、物理十六、修身十三、手工三」と記載されている。元來六十九枚の錦繪はばらばらに存在したものであったが、収集の際に旧蔵者宮木の手で製本されたことが推察される。制作者については、錦繪十、二八の各頁には曜齋国輝（一八二九—一八七四）の署名がある以外、他の版については明らかでない。

装丁は、簡略な綴帖の綴じが行われているものと認められる。外寸三六、七×二四、七cmの大判大に裁断したボール紙に金地の絹をくるみ、表紙、裏表紙とするが、背は糊付けが見られるだけで、恐らく当初から背表紙の体裁はとられなかったものであろう。見返しは、鼠色の、恐らく表具に使われる肌裏の紙を見返しとしたように窺われ、見開き二頁が当てられている。見返し右上隅に縦書きで「六十九枚」と墨書。左上隅に横書きで上から「〈950〉」「197」に縦書きで「六十九枚」と鉛筆書きあり。左下隅に横書きで「(8015217)」と鉛筆書き。「WTK」も三段の鉛筆書きあり。見返し左頁の左下方には「宮木蔵書」の朱字楠田印があり、この印の下に油染みが見られる。裏見返しは一頁のみで、右頁が本体と乖離している。合わせの頁には当初見返しがあったものと思われ、地に鼠色の肌裏紙がみえるが、その

上から大判の錦繪を貼り、最終頁としている。裏見返しの上左隅にシールが添付されている。裏表紙右下隅に切手大のシールが添付され、三段に区切られて上段から「〈950〉」「宮木」「197」の黒印が捺されている。「197」の左隣に朱字楠田印があるが、内容は判読不能である。各頁はそれぞれ薄い和紙に両側から大判錦繪を糊ばりし、これを集成して、表紙、見返しを付けて一冊としている。図版は合計六九頁あり、各錦繪に「文部省製本所發行記」、及び「宮木有蔵書」の朱字方印が図版の添付後に捺されている。

宮木文庫画帖「〈950 宮木 197〉本（以下、A本）には、前半二十枚の内容がB本の『衣喰住之内家職幼繪解之圖』と重複する錦繪がある。A本に無くB本にある図版もあれば、B本に無くA本にある図版もあるが、重複する版について比較してみると、B本で『衣喰住之内家職幼繪解之圖 第十』と書かれた錦繪は、A本では「喰」の字に口辺が抜け、「第十」が無い。この事情について『文部省掛図総覧二』（佐藤秀夫・中村紀久二編、東京書籍一九八六年九頁）では、前者が明治六年の刊行で、後者は国輝の没後、即ち明治七年以降に再版されたものであると推測している。またB本の錦繪九、十は順番が逆になっているが、これは九に題字が抜けているためかと推測される。十一から二八までの錦繪にはそれぞれ詞書に番号が摺られているが、その番号と絵の数が一致しない点は疑問が残る。（岡野素子）

凡例（各版に示した番号は次の通り。）

通し番号、画題

- ① 左右
- ② 傷・補修の状態
- ③ 印章
- ④ 詞書（旧仮名遣い、ルビは作品による。）
- ⑤ 内容

一、「基數」



① 右

② 上左隅、綴じ側に沿って浮き。下部中央に縦擦傷。上左隅の綴じ側のあたりやや波打ち。右下隅が台紙からの剥離が見られる。摺り八回。

③ 上右隅に「文部省製本所発行記」の朱字方印(以下、文部印)、その左に「宮木宥式蔵書」の朱字方印(以下、宮木印D)、文部印の左に朱字方印で「東京文理科大学附属図書館圖書之印」(以下、文理科大印)とある。また面中下右隅に重圈黒字楕円印があり、三段に区切られ、上段から「宮木宥氏ヨリ寄贈」、「登録和 173781 号」、「昭和12年 4月8日」とある。日付7と8は黒インクによる手書き。文理科大印に上書きする形で右端に「文部省発行錦絵」と墨書。摺り八回。

④ ○基數／一二三四五六七八九／大數／一十百十

十千十百萬十千／十萬百萬十萬億／少數／分十厘釐或作十毛厘毫

⑤ 室内で家族が団欒する図。赤子を抱き算盤を手に座す和装の女性がおろ、その手前に女子一人、男子二人が冊子本を読んだり算盤をしたりして座す。数学を指導する母と学ぶ子等の光景。

二、「早朝の掃除」



① 左

② 綴じ側上端より波打ち、図版左下方、上辺中央部に其々虫喰い。左上方に朱色の染み(右頁の文理科大印が転写したか)。右下部に紫色の染み。

③ 左下隅が台紙より剥離。摺り八回。文部印が上右隅に、宮木印がその下方にある。また、上段左端に朱字印で「寄附宮木」(以下、宮木印B)とある。

④ 朝ははやくおき内外／浄らかにふき掃除／してけかれなければ／悪しき病をうけず／福をむかへ寿を保／ちて終身安かるべし

⑤ 早朝に室内で和装の男性三名が竹箒、はたき、雑巾を手に掃除している。左奥の障子は大きく開け放たれ、遠景に海に昇る日が描かれている。室内奥の襖には上段に梅枝、下段に松の枝が描かれている。

三、「疎漏より出来する怪我」



① 右

② 上端台紙と錦絵八ミリ程度ずれ。右下部に広範囲に渡り紫色の染み。女兒に重ねられた炎の色は褪せし、綴じ部中央よりやや下に虫損あり。

③ 右上隅に文部印、その下方に宮木印D。二図までの八色に加えて、ピンク、茶色が入り、合計

で十色で摺られている。

④ ・⑤は一九六本二二に同じ。

四、「勉強する家内」



① 左

② 右下隅が台紙より剥離。右下部に広く紫色の染み、左下部に緑色の転写あり。全体に茶色は褪色が見られ、枠線右上端に虫損が二ヶ所ある。

③ 枠内右上隅に文部印・その左方に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本二六に同じ。

五、「狡戯をなす童男」



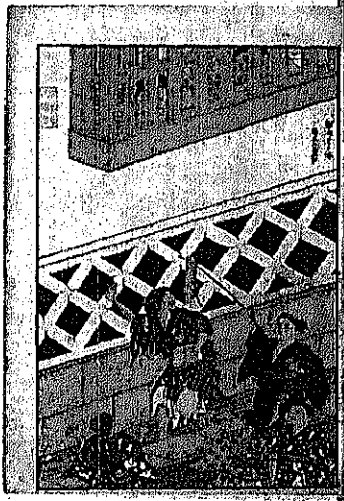
① 右

② 右下端が台紙より剥離。緑色は版が一ミリ程度ずれている。左上部のローダミンは全体的に滲みあり。上端から五ミリ程度、台紙からずれあり。綴じ辺下部に皺あり。

③ 右上隅に文部印・右端下部に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本二四に同じ。

六、「難読者を辱むる童男」



① 左

② 左下隅が台紙より剥離。文部印が褪色している。中央下部に裏から透けたような紫の染みが滲む。

③ 左上隅に文部印・その下方に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本二二に同じ。

七、「勉強する童男」



① 右

② 全体的に毛羽立ちが見られ、紙は右端から一センチずれている。左辺綴じ部に沿って二ミリ程度の折れが見られる。中央やや上部に縞状の紫の染み、その左上方にローダミンで斑点状の染み。湿気に痛みか、左上方より全体に波打っている。

③ 枠内右上隅に文部印・その下方に宮木印D。

④・⑤は一九六本二八に同じ。

八、「出精する家内」



- ① 左
- ② 左下隅、台紙より剥離し、左端より内側に紙は一センチ程度ずれている。全体的に毛羽立ちが見られ、右下部に斑点状の紫の染み。紫は全体的に滲んでいる。
- ③ 枠内右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 出精する家内
- ⑤ 機織に精を出す母と、勉学に励む子等の図。女児は家事を手伝いつつも傍らで書を読む。

九、「幼童絵解運動養生論説示図2」



- ① 右
- ② 画面に紫が多用されているが、右下部が著しく紫に滲んでおり、洋紅も数箇所飛び火している。手前の女性の顔部に墨色の汚損。上辺中央に中損あり。
- ③ 詞書末尾に宮木印D。
- ④ 出て或は綱渡り或はブランコ／或は輪を廻し鞆を投げ／四肢を運動し身体を健康／にす是をジムナスチックといふ／又此遊びを教ふる先生／ありて子供にはかならず／これをなさしむ故に／苦学すといへども其身／健康なり／現今は大抵此法を用みれ／ども往古の読書人は只勉強／するのみを知て養生をせざる／ゆゑ大抵／身体脆弱に／して勇なく無用の人と／なれり
- ⑤ 幼童絵解運動養生論説示図の内、左の版である。

十、「親切なる童女」



- ① 左
- ② 上辺より一・五センチのずれ。代替の部分には筋上の白色が見られ、版木の痛みを反映している。水色の染みが左下部にある。
- ③ 左上隅枠線上に文部印。その下方に宮木印D。
- ④ ⑤は一九六本二五に同じ。

詞書は児童のあるべき姿として、学問のみならず運動にも励むことを説く。同様の情景を図示している。

十一、「鍛冶屋」



① 右

② ここまでは頁が冊子から乖離している。綴じ辺上から八センチ程度でかるうじて繋がつている。全体に毛羽立ちが見られ、右下隅に広い染み。上辺六ミリ台紙よりずれ。中央下部にすらの斑点状の染み。

③ 詞書冒頭に文部印・外題右方に宮木印D。

④・⑤ 一九六本一に同じ

十二、「家屋の設計・割付」



① 左

② 全体が収まっているので、四方断ち落とししか。上辺特に毛羽立ち。画面右下に広く紫の淡い染みが広がる。

③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。

④・⑤は一九六本二十に同じ。

十三、「畳屋」



① 右

② 左辺および下辺断ち落とししか。右下隅が焼けている。中央上部に虫損あり。

③ 詞書冒頭に文部印・その左方に宮木印D。

④・⑤は一九六本二に同じ。

十四、「樵夫」



① 左

② 上辺が六ミリ台紙よりずれている。下辺・右辺断ち落とし。画面右下部の男性を中心として紫の染みが広がる。右下隅に、紙自体の燃れ。

③ 詞書冒頭に宮木印D。

④・⑤は一九六本九に同じ

十五、「筏による木材の運搬」



① 右

② 画面中央から下に縞状の紫の染みが広がり、特に右下隅に著しい。上辺六ミリ程度のずれあり。上辺以外の三方断ち落としか。

③ 外題左方に文部印・その下方に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本七に同じ

十六、「経師屋」



① 左

② 左辺下部に墨色の汚損。上端より六ミリずれ。右下隅が毛羽立ち。中央部に衣服を象った様な紫色の転写あり。

③ 外題の左下方に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本十に同じ

十七、「植木屋・左官(上塗り)」



① 右

② 完全に冊子から乖離する。右中央部よりやや下方に全体的な紫の転写あり。全体的に褪色している。

③ 詞書冒頭に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本四に同じ。

十八、「木材の買付け」



① 左

② 上端より斜めに五ミリ程度ずれている。中央に格子状の紫の染み。左上隅に焼けが見られる。下辺右方に燃れあり。

③ 詞書冒頭に文部印・その下方に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本三に同じ。

十九、「普請場地ならし」



- ① 右
- ② 四方が断ち落とされている。右下方に水によると思われる汚損あり。色がぼやけている。下方左部に代赭の転写。
- ③ 外題左方に宮木印D。
- ④ ・⑤は一九六本五に同じ。

二十、「石工・水縄」



- ① 左
- ② 上辺一、二ミリ程度ずれている。左端は全体的に焼けている。右下方にローダミンの染み。中央右方毛羽立ちあり。紫色は版がずれている。右下部に宮木印D・左上端に宮木印B。
- ④ ・⑤は一九六本十二に同じ。

二十一、「木挽き・黒糸ひき」



- ① 右
- ② 上端より五ミリ程度ずれ。下部にとどこどころ紫の転写あり。下端及び右上隅に焼けと毛羽立ちが見られる。
- ③ 詞書冒頭に文部印・その左方に宮木印D。
- ④ ・⑤は一九六本十四に同じ。

二十二、「造作づくり」



- ① 左
- ② 上端より五ミリずれ。中央よりやや上部および左下部に紫の転写あり。右下方の紫は滲んでいる。綴じ部下端は虫損。
- ③ 外題左方に宮木印D。
- ④ ・⑤は一九六本十三に同じ。

二十三、「鉋けずり・鋸ひき」



- ① 右
- ② 上端より四ミリずれ。上辺右部、下辺右部に焼け及び毛羽立ちあり。右下部の人物に被るよう油染みあり。右辺・下辺は断ち落とし。
- ③ 外題の右方に宮木印D。
- ④ ・⑤は一九六本六に同じ。

二十四、「屋根板づくり・左官仕舞づくり」



① 左

② 上端より六ミリのずれ。画中五箇所人物の上半身のような型をした紫の転写がある。縁じ辺下半分に裂傷がある。全体に焼けが見られる。

③ 詞書冒頭に文部印・その左方に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本十五に同じ。

二十五、「上棟」



① 右

② 外題の枠の色が欠失している。上端より五ミリずれ。他の三辺は断ち落とし。中央左部に紫の転写。所々に紫が転写している。人物の袖口の内部が白抜きに鳴っていることから、本来の版数より少ない状態であると推測される。

③ 右上隅に宮木印D・その左方に文部印。

④ ・⑤は一九六本一六に同じ。

二十六、「左官下塗り」



① 左

② 外題左方に紫の転写、他所々に紫の染みが見られる。紫の版は全体的に滲んでいる。縁じ辺上部に焼けあり。

③ 詞書冒頭に文部印・その左方に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本十七に同じ。

二十七、「瓦屋」



① 右

② 上端より五ミリずれ。画面下部に所々紫の転写あり。左下部に三箇所虫損がある。

③ 詞書冒頭に文部印・詞書末尾に宮木印D。

④ ・⑤は一九六本一八に同じ。

二十八、「瓦・煉瓦の製法」



① 左

- ② 全体的に焼けている。上端二ミリずれ。下辺・左辺は断ち落とし。左辺上部に油染みあり。
- ③ 詞書冒頭に宮木印D。
- ④ ・⑤は一九六本十九に同じ。

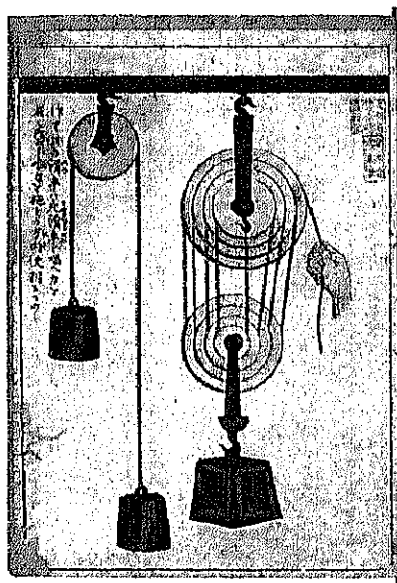
二十九、「滑車」



- ① 右
- ② 上端より一ミリ、右辺より二ミリのずれ。右下部に、袋に重なるようにして紫の染みがある。右下部に油染み、左下部に虫損。反対頁と上端からのずれ幅が一致している。
- ③ 詞書冒頭に宮木印D。
- ④ 死滑車にて重物を引／揚るにはその重さ十斤なれ／は人力も亦十斤を費すべし／若これに活滑車を加ふる／ときは重物より力の方速／かに動くゆゑ力を省くなり
- ⑤ 滑車の使い方の説明した図。画面には男性が大

きく描かれ、滑車を用いて麻袋を垂直方向に持ち上げている。ハッチングの使用や人体の骨格は西洋風である。

三十、「滑車」



- ① 左
- ② 上端一センチ、左端二ミリのずれ。左下隅三方センチの裂傷。左端下方に虫損が三ヶ所ある。右上隅がやや焼けている。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 作り付の滑車は死滑車と唱へ力を／省く所なし唯力を施すの方向便利なるのみ
- ⑤ 滑車の使い方説明した図。上下に二つ滑車を下げて右手がそこに連なる紐を引くと、分銅が持ち上がるという図と、一つの分銅に紐を下げて両端から分銅が引き合う図。

三十一、「木挺」



- ① 右
- ② 綴じ辺に沿って三ミリほど折れている。下辺・右辺は断ち落とし。上端中央に裂傷。左下部に虫損が三箇所ある。右下方には紫の染みが見られる。
- ③ 枠内左上隅に宮木印D。
- ④ 此木挺は一端を／支へ一端に錘を／掛く力を用ゐる／所中間にあり支／点の方に近づく／なり下の図皆此／理なり／手前の螺旋にて／支へ其近き処に力／を用ゐる先に一端に／物を挟み働きを／なす／長き板の一端／を地に支へ一端／を器械に釣り／中央以下の／処を踏み働き／をなすもの／なり
- ⑤ 挺子がどのようなものであるかを三種類図示している。それぞれ、分銅を下げた棒、先端に物を挟む使い方、板を踏み物を下方に引く原理を

説明している。それぞれ、西洋人のような力強い骨格を感じさせる手が描かれていることから、典拠が外国のものであると思われる。

三十二、「空気と水」



① 左

② 上端よりずれ六ミリ。下辺右部および左辺下部に虫損あり。左端上部に水色の汚損。

③ 枠内左上隅に文部印・その下方に宮木印D。

④ 西洋の学者世界を空気の海と／号けたり海河の物一ツとして水の浸／さざるはなく陸地の物一ツとして空／気の包まざるはなし気を扇て／風の起るは水を擾して波立と同／じ人の呼吸するは空気を吸ひ／空気を吐く者にて魚の水を呑／み水を吐くと異なることなし魚は／水と離るれば死し人は空気／と離るれば死す空気なければ／禽獣草木も生を保つ事能はず／空気は色なき物の如くな／れども其性青

し天の青きは／空気の重なるゆゑ也水も深／淵は青くこれを器に盛れば／色なきが如し
水素と酸素の分子のことを、生活に即して説明した図。画面上部にある詞書は、西洋の学者が発見したこととして書かれているため、異国風の装丁をした本の中に配されている。画面手前では親子と思しき男児と男性が桶を攪拌し、その奥では男性が団扇で升を扇ぐ。

三十三、「木挺」

三十三、「木挺」



① 右

② 左上部に斑点状にローダミンの染みあり。全体に褪色している。

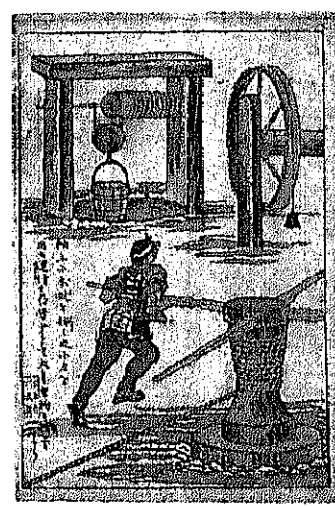
③ 枠内右上隅に文部印・その左下方に宮木印D。

④ 梯子の一端を地に支へ之を起すときは労少しと雖その力を用ゐる所梯子の中央以下にあるゆる／多く力を費すべし

⑤ 梯子を立てかける動作を挺子の原理に基いて説

明した図。大きく描かれた男性一人だが壁に梯子を立てかけようとしている。梯子には影が添えられ、また窓の表現は立体的である。

三十四、「輪軸」



① 左

② 上端より六ミリずれ。他三辺断ち落としか。左上部焼けあり。人物の上に墨色の汚損が少々見られる。

③ 枠内左端下部に宮木印D。

④ 軸上に木挺を挿み之に力を／用ゐる運行すれば労少くして大なる重物をひき上る／なり

⑤ 井戸の水汲みや猟師の引き綱を、挺子の原理を用いて説明した図。三種類の例示があるが、其々立体的で地面には影を落としている。ただし人物に限り和装に描かれている。分銅を下げた図は本作が揃い物の左半分であることをうかがわせる。



① 右

② 綴じ辺下隅が剥離している。綴じ辺上隅に擦れが見られる。洋紅の版は一ミリ弱ずれている。綴じ辺に沿って一ミリ程度、紙が折れている。

③ 枠内右上隅に文部印・その左方に宮木印D。

④ 此木挺は支ふる処と／力を用ゐる処と両端／に分れその中間に錘／ありて支ふる処に近づ／く下の図は皆此理に／基つけるなり／推と／ころの木挺を長くし荷物を／輪に近寄て積と／きは力を／勞すること少し／木挺にて荷物を動かすは挺の／枝手を長くするに従ひ力／を省くこと多し

⑤ 挺子の支点・力点・作用点の原理を用いて物の運搬を簡便にすることが出来ることを説いた図。三六と対である。上段で原理が説明され、手押し車を両手で押す図、荷俵を挺子で転がす図が下方に配される。



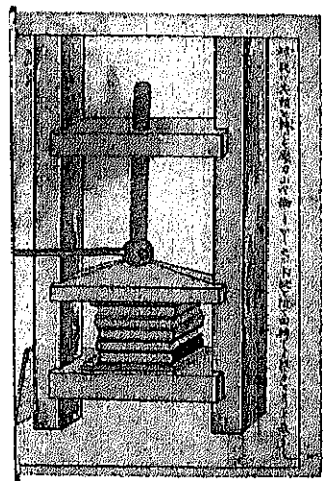
① 左

② 右下部、広範囲に渡りローダミンに染み。右下隅に油染みおよび焼け、毛羽立ちが見られる。

③ 枠内左端上部に文部印・中央上部に宮木印D。

④ 此戸は蝶鉄／にて支へ手前／に力を用ゐる／中の重み／を動かす／なり／此胡桃などを／割る道具は力／を用ゐる所鉄／刀と同様なれ／ども彼は端にて／働きたるは中間に／働くなり／重物を木挺の中央にかけ之を荷ふときは二人の力を用ゐる／こと等し若一方に偏すれば物に近づく方多く力を費すべし

⑤ 三五の原理に基く動作を例示した図。蝶番の部分および胡桃を割る鉄の図、大樽を運搬する男性が描かれる。



① 右

② 左上部広範囲に渡りローダミンの染みあり。それに重なるように紫の染みが在る。右下隅に毛羽立ち、左上端に虫損。

③ 枠内右下隅に文部印・その左方に宮木印D。

④ 螺旋は其頭を転ばす圧力にて働くなり之に木挺を附て回転するときは力を省くこと最多し

⑤ 本を圧縮する例で、挺子の原理を応用させた事例を示す図。螺旋を組み合わせて圧力を示す。画面には具体例だけが大きく拡大されて描かれ、詞書は簡潔である。五冊の本が圧縮されているが、和綴じ本ではない。機械の側面には影がハッチングされる。

三十八、「螺旋」



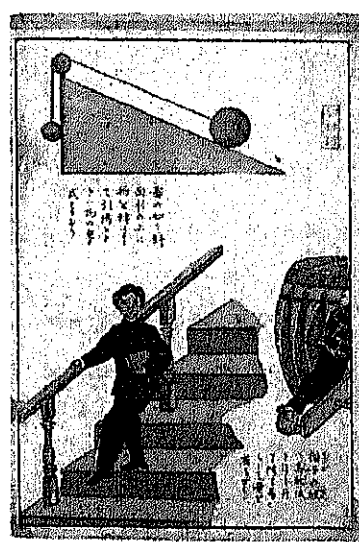
- ① 左
- ② 中央左部に紫の染みあり。左端上部にやや焼けがある。下辺左隅に虫損あり。
- ③ 左辺下方に宮木印D。
- ④ 螺旋は斜面形より成ものな仮へは斜面形の紙を／筆の管などに巻ときは螺旋の形を現するなり
- ⑤ 三七の機械を分解して説明した図。螺旋の上部及び下部、螺旋溝が拡大されて描かれる。本の圧縮機の螺旋を回す人物は和装である。

三十九、「斜面」



- ① 右
- ② 右下方に広範囲にわたる紫の汚染。水によるものか。右下端は焼けている。上端より一センチ程度ずれ。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 荷車に重物を積るとき木を／斜に横へその／上に物を持せて／転かし揚るとき／は労を省くなり／車の高さと木／の長さにより力／を減すること差／別あり
- ⑤ 斜面の角度により力点にかかる力が変化することを説明した図。二人の男性が荷車に大樽を乗せて坂を上がらんとする。服装と手前に綱が置かれていることから、獵師を思わせる。樽は中央が膨らんだ、洋風のものである。

四十、「斜面」



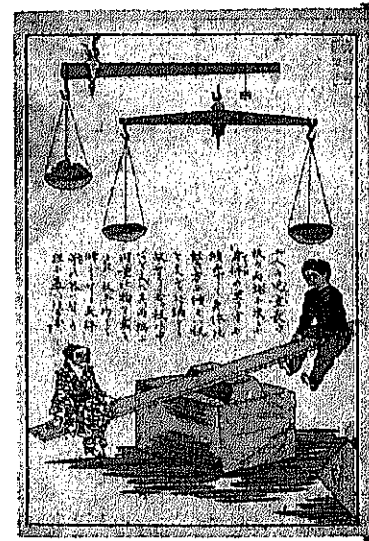
- ① 左
- ② 下端左部に三ヶ所、左辺下部に一ヶ所虫損がある。上辺二センチのずれ。左端上方油染みあり。
- ③ 右上方に宮木印D。
- ④ 図の如く斜／面形の上に／物を転かし／て引揚ると／きは物の重さ／減するなり／楷子の級／は高配低／きほと升／り降り易／くして労を／省くなり
- ⑤ 画面上部で幾何形体によって三角形の法則を説明し、それが階段に応用されていることを説く図。画面左には、本を携えて階段を下る洋装の少年が居る。製図されたかのような直線で描かれた階段には影があり、手すりには彫刻が施されている。

四一、「木槌」



- ① 右
- ② 上端より六ミリずれあり。反対頁とずれの幅は等しい。右辺・下辺は断ち落としてあり、文部印が途切れている。全体に焼けが見られ、上部左方に代赭の汚損がある。
- ③ 左上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 木槌にて重き物を動すには槌を直くすれば力を多く／費し斜にすれば／力を省く又槌を支ふる所と力を用る所／との相去る遠近に／従ひ其動くこと／差別あり／鈍刀の物を切るも亦木槌の理に／基くなれば力を用ゐる柄と物を／挟む所と相隔る程切断の力強きものなり
- ⑤ 槌子の原理を生活に即した応用例を示す図。鈍で紙を切断する例及び、角材を転がす例を二例描いている。

四二、「木槌」



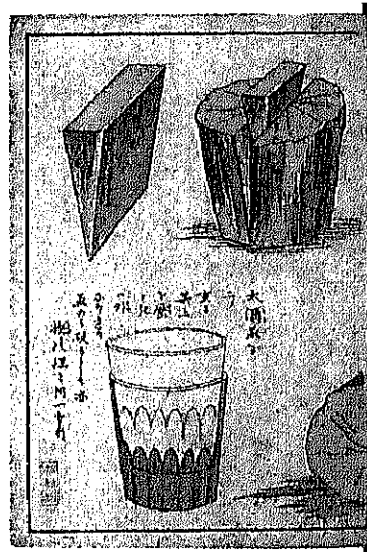
- ① 左
- ② 上端より六ミリずれ。他三辺は断ち落とし。左上方に代赭色の大きな染み。全体に毛羽立ちがある。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 二人の児童長き／板の両端に乗るに／身体は板を支ふる処偏なる／故なり若し板の中心を支へ其両端に／同量の物を載る／ときは板平均して／傾ことなし天秤／等の器は皆この／理に基づけるなり
- ⑤ シーソーの原理を説明する図。和装と洋装をした二人の児童が木製のシーソーで遊ぶ。画面上部ではその原理を両皿天秤と片皿天秤で示している。

四三、「楔」



- ① 右
- ② 左上方に大きな紫の染み。綴じ辺から三ミリのずれ。下辺は毛羽立ちが見られる。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 楔は斜／面形の二ツ／合体したる／ものにて木または／岩等を劈ぎ或／は柱を起すに必用の／器なり其形ち薄けれ／は力を省き厚ければ／余分に力を費すなり
- ⑤ 楔を用いて丸太を裂く図。大槌を振りかぶる男性が、丸太に半ば刺さった楔に狙いを定めている。背景の無い説明的な画面である。

四四、「楔」



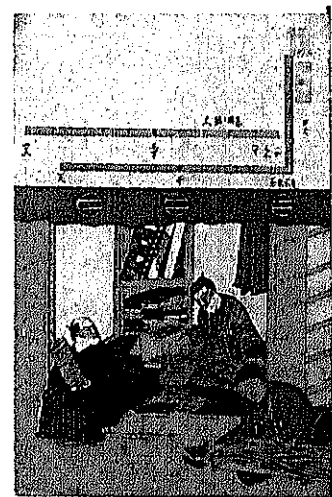
- ① 左
- ② 左上角が三ミリほど折れている。左下隅から大きく台紙より剥離している。下辺は毛羽立ちが見られる。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 大酒盃を / 二つ / 重ね / 其上 / を圧 / とし / は外 / になれる / 盃のみ破る / も亦 / 楔の理と同一なり
- ⑤ 楔の原理を説明したものととして、コップを図示する。画面上部には楔単体と、丸太の木目に垂直に楔を割入する図が配される。下部には二つ重ねられたコップが描かれている。

四五、「度量衡」



- ① 右
- ② 左上部に大きな油染みあり。左部中央に紫の転写あり。緩じ辺以外の三辺は断ち落とし。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 上下二分割線が引かれ、上部には重さを表す単位とそれを量る器具が示されている。下部には店先で俵の重さを量る男性四人の情景が描かれる。単位は厘分寸尺であり、器具は物差し、人物は和装と、全て和風に統一されている。

四六、「度量衡」



- ① 左
- ② 緩じ辺下方に一ミリ程ずれあり。中央右下に紫の転写。左下隅より頁が剥離。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 上下二分割線が引かれ、上部には長さを表す単位とそれを量る器具が示されている。下部は反物屋での一面であろう、色とりどりの反物が背景の襖に描きこまれている。

四七、「度量衡」



① 右

- ② 上端より一センチずれ。反対頁と幅は同じである。下辺左部に石黄きおうの転写が見られる。
- ③ 右上隅に文部印・右端上方に宮木印D。
- ⑤ 上下二分割線が引かれ、上部にはかさを表す単位とそれを量る器具が示されている。下部は米屋であろう、算盤をはじいて俵から升到米を注ぎ入れる様子が描かれている。

四八、「稲の生育法と用」



- ① 左
- ② 上端より一センチずれ。右下部に水染みおよび褪色が見られる。綴じ部より二ミリ程折れている。綴じ辺に沿って下方が焼けている。
- ③ 枠内左上隅に宮木印D。
- ④ 稲を育てて収穫するまでを説明したそろい物の内、最後の一版である。収穫を終え、米を藁に包んで俵にしていく工程を示している。上下二

分割線が引かれ、上部にはそれに使用する器具が示されている。

四九、「養蚕と繭の用」



- ① 右
- ② 全体に毛羽立っている。綴じ辺より三ミリずれている。右下隅が頁から乖離。左上方の水色が褪色している。
- ③ 右下方に宮木印D。
- ④ 蚕を育ててから反物に仕上げるまでの工程の内、最後の段階を示した図。上下分割線が引かれ、上部には完成品として絹・紬といった様々な生地、反物や組糸、帯などが配され、下部にはそれを仕立てる二人の工女が描かれている。

五十、「養蚕と繭の用」



- ① 左
- ② 全体に毛羽立っている。左上隅焼けあり。画面右下方の緑は版がずれている。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ⑤ 蚕を育ててから反物に仕上げるまでの工程の内、最初の段階を示した図。上下分割線が引かれ、上部には原料の蚕・繭などが配され、下部には蚕が四度の寝起きを繰り返した後に意糸を収穫できる旨が記される。それを仕立てる二人の工女が描かれている。

五一、「稲の生育法と用」



- ① 右
- ② 右下部に著しい汚損。油染みか。同じ箇所には紫の転写も重なっている。上端より一センチ程のずれ。ずれ幅は反対頁と同様。
- ③ 中央上部に宮木印D。
- ⑤ 稲を育てて収穫するまでを説明したそろい物の内、四番目の図である。収穫と脱穀の工程を示している。上下二分割線が引かれ、上部には麴から生成される物として甘酒・焼酎・酔などが示されている。

五二、「稲の生育法と用」



- ① 左
- ② 上端より一センチずれ。全体に毛羽立ちあり。綴じ辺下方にローダミンの染み。
- ③ 右上方に宮木印D。
- ⑤ 稲を育てて収穫するまでを説明したそろい物の内、三番目の図である。田植えを終え、田草取りと

水耕の工程を示している。上下二分割線が引かれ、上部にはもち米から生成される物として団子などが示されている。

五三、「稲の生育法と用」



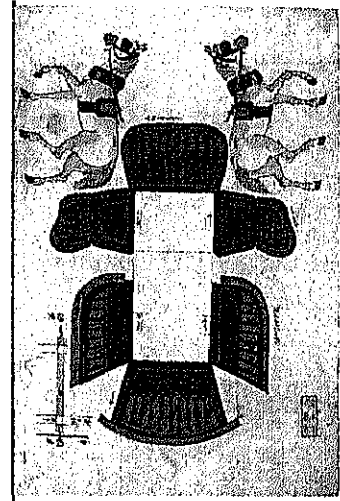
- ① 右
- ② 上端より六ミリのずれ。幅は反対頁に等しい。色版が枠線とずれていることから、地墨がずれたものと思われる。右下隅焼け、左端中央石黄の転写。
- ③ 左端上部に宮木印D。
- ⑤ 稲を育てて収穫するまでを説明したそろい物の内、二番目の図である。田植え、水耕の工程を示している。上下二分割線が引かれ、上部には伸し餅が示されている。

五四、「稲の生育法と用」



- ① 左
- ② 上端よりずれ六ミリ。綴じ辺に一ミリの折れあり。左端上方に焼けが見られる。左上隅に虫損あり。緑は特に褪色している。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D、宮木印Dの下方に宮木印B。
- ④ 大略／三に／分つ／粳うるし／糯もちかうし／*なり／粳糯に早／中晩の三種／あり*に旱水おかは／紅白の別あり／五穀の長にして／実を日用の食に／供す外皮を穀こまといひ／内皮を糠といひ其茎を藁わら／といふ其ものに因り用をなす／ことの多きは図によりて／見るべし
- ⑤ 稲を育てて収穫するまでを説明したそろい物の内、最初の一版である。稲の種類と、米を苗にするまでの工程を示している。上下二分割線が引かれ、上部には粳・糯・粘など稲の種類が示されている。

五五、「馬車組立て図」



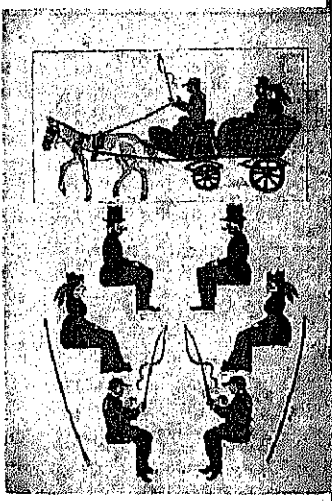
① 右

② 綴じ辺上部及び右辺全体に毛羽立ち及び焼けが見られる。左下方に虫損あり。

③ 右下方に宮木印D。

⑤ 馬車を組み立てる縦万古の一種。ここでは馬と馬車の側面が示される。

五六、「馬車組立て図」



① 左

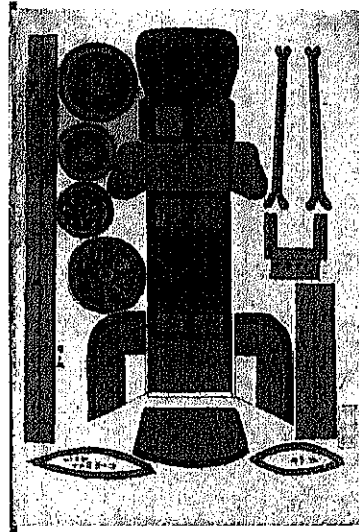
② 上端より四ミリ程度ずれ。綴じ辺上部に一ミリ

程度の折れがある。右中央に水滴の斑紋で汚染がある。右下方に紫の染みがある。

③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。

⑤ 馬車を組み立てる縦万古の一種。ここでは全体像が描かれ、御者と紳士・夫人、接続帯が示される。

五七、「馬車組立て図」



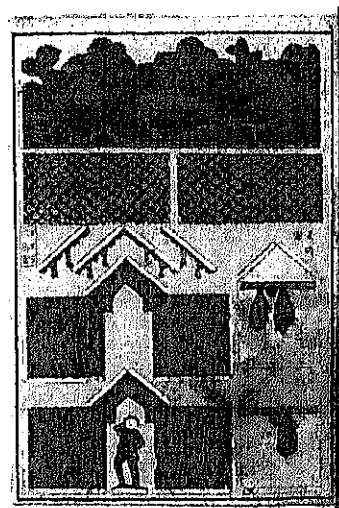
① 右

② 綴じ辺よりずれ一ミリ。綴じ辺上部に沿って油染み、左上方に広範囲にわたってローダミンの染み、焼けあり。

③ 右下隅に宮木印D。

⑤ 馬車を組み立てる縦万古の一種。ここでは馬車の胴体部分が示される。

五八、「器械体操組立図」



① 左

② 上端よりずれ二ミリ。右上隅に虫損、右下方に大きく紫の染みあり。左下隅が頁より剥離。

③ 左端中央に宮木印D。

⑤ 体操をする競技場を構成していく縦万古の一種。ここでは少年が一人と家屋の壁面、書割が示される。

五九、「西洋人形着せ替え図」



- ① 右
- ② 右下隅が頁より剥離。右下方に紫の染みおよび焼けが見られる。上端より二ミリ、右端より五ミリ程度ずれ。水色は版木がずれている。全体とどこどころ汚染。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 西洋の着せ替え人形の一種。少女三人に衣装が四着ある。

六〇、「西洋人形着せ替え図」



- ① 左
- ② 左端より八ミリ、上端より一センチ程度のずれ。水色は版がずれている。左下隅は頁より剥離。
- ③ 右上隅に文部印・その左方に宮木印D。
- ④ 西洋の着せ替え人形の一種。少女二人に衣装が三着、男性が一人に衣装が一着ある。

六一、「西洋人形着せ替え図」



- ① 右
- ② 上辺より五ミリ、右辺より二ミリのずれ。右端上方に虫損。洋紅は滲みが見られる。
- ③ 左下隅に文部印・その右方に宮木印D。
- ④ 西洋の着せ替え人形の一種。少女二人に衣装が四着、男性が二人に衣装が二着ある。

六二、「西洋人形着せ替え図」



- ① 左
- ② 上端より六ミリずれ。左辺に焼け及び毛羽立ちがある。右下方にローダミンの染み。右上隅に薄墨の汚染。所々、洋紅の色が飛び火している。
- ③ 右上隅に文部印・その左方に宮木印D。
- ④ 西洋の着せ替え人形の一種。少女三人に衣装が四着、少年が一人に衣装が一着ある。

六三、「器械体操組立図」



- ① 右
- ② 全体に焼けと毛羽立ちが見られる。洋紅が一ミリ程度ずれている。右下方に紫の染みあり。上端より三ミリのずれ。
- ③ 右上隅に文部印・その下方に宮木印D。
- ④ 体操をする競技場を構成していく縦万古の一種。ここでは全体像と観衆、体操する少年達が示される。

六四、「器械体操組立図」



- ① 左
上辺より三ミリのずれ。左下隅が頁より剥離している。右下方に大きく水紋上のローダミン色の染みがある。それに重なるように紫の転写がある。色の乗りが荒く、版数を重ねたものと推測される。上辺中央部に薄墨の汚染。
- ③ 右上隅に宮木印D。
- ⑤ 体操をする競技場を構成していく縦万古の一種。ここでは体操する少年達が七人と吊り輪の体操器具、昇り旗が示される。

六五、「伊国秩ツイアーノ」



- ① 右
左上方に油染みがある。代赭と洋紅の色乗りが荒く、版を重ねたものと思われる。右下隅が頁より剥離している。
- ③ 右上隅に文部印・文部印下部に重ねて宮木印D。
- ④ 秩襄は以太利有名の画家なり／曾て日多年恒久に耐て腰大題の／作り難き画を作るときは心手慣／熟して後甚だ容易なるに至る他人は／其易きを見て従前の難きを知る／者少しと或人秩襄に半身の画／を囁し十日にて成就したるを／幾許の金を報んやと問たれば金百両なりと／答ふわづか十日の料には甚だ多しといへば／秩襄曰我十日は三十年間字び得たる所なりといふ

⑤ 『西国立志編』からの一説。詞書にしたがってツイアーノが自画像を注文される情景が描

かれてはいる。



六六、「米国加来爾カーライル(写)」

- ① 左
全体に焼けが見られる。上辺が毛羽立っており、四方は断ち落としか。代赭の版はずれている。左下隅は頁から剥離している。
- ③ 右上隅に文部印・左上隅に宮木印D。
- ④ 加来爾は写字机の上にある蠟燭を／小犬に倒され多年勉強して測量／せし稿紙を一朝灰燼となしたり／是に由て大にその体気を傷り解悟の／力も衰減せりと云ふ又其著はせる一冊の／写本を客堂の地板に置きを下婢誤て／廃紙と思ひ火中に投しける加来爾／痛惜すれども為へきやうなく再び／筆を把り記憶中より搜り出し／草稿を属したり／此書を編著せしは得意の／事なりしが再次の属草は／其劳苦惨痛大かたならず然れとも／遂に堅定の

志に由て成就したりけり

- ⑤ 『西国立志編』からの一説。男性が書物が燃える様を見て動揺している情景が描かれている。

六七、「浮力」



① 右

- ② 全体的に汚染が著しい。水によるものか、右下方に大きく紫の染みが在る。右下隅には油染みがある。左中央部に墨書によるような汚染がある。上端より五ミリのずれ。枠線上、上辺右部に、宮木印Dが誤って転倒した状態に捺され、訂正されている。

③ 詞書冒頭に文部印・詞書末尾に宮木印D。

- ④ 人の体は水より軽き物なる故水に入れば／自／浮ふものなれども其頭原來重き／故に／誤て水に落入たる時頻に頭を／水上へ出さんとすれば頭いよいよ重く／なり全身沈むに至る／かゝる時は精／神を鎮め仰向になり

頭窩を水に／浸すように為べし顔七八分は沈

- ⑤ 浮力を説明した図。詞書では主に水難に遭った際の対処法を説明する。図は少年らと犬が泳ぐ様子を示すものになっている。

六八、「仏国巴律西パリシー（磁器）」



① 左

- ② 左辺は断ち落とし。上辺は毛羽立ちが見られ、綴じ辺の下方は焼けている。色は鮮明に残っている。

③ 右上隅に文部印・その下方に重なるように宮木印D。

- ④ 法蘭西の巴律西は／其国の磁器の粗／なるを見て精品を／作らんとて数度／の経験に店架椅／子までも焚尽しけ／れば妻子は発狂せし／と嘆きしが遂に此火／力によりて薬料始／て焼付其功を成したり

⑤ 『西国立志編』からの一説。男性がイスをハナマーで叩き割り、それを見る妻子が恐れ慄く様を描く。煙や炎の舌を筋上する描き方は特徴的である。

六九、「仏国葡萄岡係ボーカンソン（自鳴鐘）」



① 右

- ② 裏表紙とは完全に分離している。上端より五ミリのずれ。右下方全体に紫の染みがある。地墨が褪色している。見返しの一部が本版に残存していることから、初めに見返しによって接続されてから、錦絵を貼り込んで行ったことが分かる。後に裏表紙の重みで千切れたものと推測される。
- ③ 左中央に宮木印D。
- ④ 法国フランスの葡萄ぶどう孫むすこは童子どうし／たりし時に自鳴鐘じめいしょうの転／ずるを見て木を以てよく／時に合ふ自鳴鐘を作りし／者ものなるが又鴨かひの自ら水を／飲み声を発して游泳する／機器ききを造り精妙人せいめうじんを駭おどろか／せり後に其国の納綴なりぞい製作せつさく／場ばの監督かんとくとなり世に類なき／花紬はなちゆうを織る器械きかちを／造り出せしとなり
- ⑤ 『西国立志編』からの一説。室内で男性が壁時計を見つめている。画面中央の窓に掛けられた赤いカーテンや室内調度うちうちが洋風な雰囲気ふんいきを醸し出している。